

撮影れ上手なサナエさん

めろろ・いえろお



「また撮るの？」
ムダだろうけど文句言ってみる。
当然、後ろのおじさんは全然
聞く耳をもたない

もぞ

もう何度も撮られてるから
いまさらなんだけど、
こんな格好を撮られるのは
抵抗がある

もぞ

「んっ♡ ああ…っ」
やば、はずかしい…っ。
チンポで軽くグリグリされるだけで
甘ったるい声が出てしまう。

びく

びく

びく

子供の頃からこんなことされて、
今では、私のアソコは
私よりおじさんの方がくわしい。
だから――

ぐち

ぐち

「んあ、あ♡ あ、くうっ♡」
さきつぽでコシユコシユされるだけで
バカみたいに喘いでしまう
本当、バカみたい、なのに——

「ん、ほ、お♡ お、ッ、ああああッ♡」
きもちいい…っ。
硬いチンポが中をこする度に
背筋をビリビリした気持ちよさが
駆け抜けていく

コチユ♡

コチユ♡

「ッあああ……、あああっ♡」
それがたまらない。
さっきまでの不満とか色々が
ピンク色のもやでかき消えていく……

「あ、おまんこ……、おまんこお……♡」
おじさんに教えこまれた女の子の箇所。
普段は絶対口にしない単語がもれると、
さらに気持ちよさで頭がいつぱいになる



「あっ、あっ、あ、あ、あああ♡」
本当に少しだけのピストンで
媚びた声が口から出てくる

びく

びく

ぶるるる

ちんぽ、ちんぽ、ちんぽ♡
おじさんちんぽ♡
なか、もっとして欲しいって
おまんこがキュンキュン切ない……♡

パチン

パチン

びく

それを読み取ったかのように
おじさんは私のカラダを
思いつき持ち上げた

ガ

バ

「わわわッ……あひッ♡」
戸惑う私に、チンポがズンっと
めりこむ。
その衝撃で、私の頭は白く染まり
身体が強くケイレンした

あ、これヤバイ…
頭にピンと緊張が走る
ただでさえ気持ちいいまんこに
チンポがズツプリ刺さるこの体勢…

ズグ

ズグ

動いてない今でも
背筋のゾクゾクが止まらない
自分でも驚くほど
心臓の鼓動が大きくなってる

「あのおじ
んあああああ♡」
不意に身体を軽く落とされ
子宮にチンポが突き当たった

ビーン♡

ビーン♡
ビーン♡

ズバ
ズバ

ズバ

ビリビリと大きい快感の電流が
いっきに頭を痺れされる。
あ、きもちいい♡
これ、ダメ♡ ダメなやつ…♡

「んあ♡ あっ♡ あ、へあ♡」
情けない声が回から飛びでる。
でも喘ぐのすら気持ちいい♡
声を上げてよがるの、好きだ…♡

「あ♡ おじさん♡ おじさんちんぽ♡
ちんぽ、きもちいい♡ きもちいいよお♡」
遅いおじさん♡ おじさんのちんぽ♡
抱えられてするセックスって
こんな気持ちいいのか、と夢中になる

バチュバチュ♡

バチュ

「あっ♡あ、あ♡あ♡あ♡あん♡」
でも、ちよっともどかしい…
もっとガツガツちんぽ欲しい
揺さぶられるのもいいけど、

男の人のペニスを
パンパンされるのが好き、好きなんだ♡
動物みたいに…

ズボ
ズボ

私の不満を察したのか
おじさんは私をベッドにおろして
四つんばいにさせた

は、♡

はー♡

はー♡

は、♡

は、♡

「あ、は、はやく♡♡ ちんぽ、ちんぽ♡♡
録画用のスマホの位置を調整する
おじさんにすでに夢中なわたしは
みつともない催促をしてしまう

すぐさまおじさんは
私の入り口に亀頭をあてがった
あ、これ♡ ちんぽとキスしてる…♡
そう思うと愛しさがこみ上げてくる

んぽー！

ぽー！

♡ むくむく

くちゅ♡

くちゅ♡

♡

子供の頃から可愛がってくれるちんぽ♡
もうすっかり私のまんこは
おじさんペニスに懐いてしまっている。
はやくはやく、とお尻をふりふりして
挿入をねだる私

「ッお、おおお……おおっ♡」
おじさんは焦らすように
ゆっくりとナカに入ってきた

びく

びく

び

あ♡あ、これ、これこれこれええ♡
おまんこが待ちきれずにちんぽに
キュウキュウと吸いついてるのがわかる
このちんぽが好き♡
好きすぎる……♡

ズズズ…♡

「おおおお♡ おおおっ♡」
ゆっくりとした速度で
ちんぽがナカに入りこんでくる

びゅん

ぬぷぷ

自分のお腹におじさんがめり込んでくる…
この感覚が好き…♡
ナカかき分けて、ちんぽが子宮に届きそう…っ♡

びゅん

びゅん

「んお♡ あ、あ♡ あああ♡ あああ♡
ツン、と子宮に亀頭があたった
あ、これ、気持ちいい……♡」

ズ
ズ

ズ

ふだん、自分でも触れない箇所
男の人の硬いのが当たる感覚……♡
はあ……♡ これからセックス♡
パコパコするんだ♡ そう思うと
心臓のバクバクが止まらない

ズ

ズ

ぶるる

「あっあッ♡ あんっ♡ あん♡」
今までのスローな動作がウソみたいに
おじさんはガツンガツンと腰を当ててきた

ビッ

ハッ

バチュ♡

グッ

ビッ

バチュ♡

バチュ

これ♡これが一番すき♡
ちんぽでゴリゴリ犯される感覚♡
子供扱いにチンコキされるのが
たまらない……っ♡

「えあ？ あ、だ、だいじょーぶ…♡
だいじょぶだから、もっと♡
もっとしよ？♡ ん、あ、あっ♡」
おじさんが声をかけてくれる
ああ♡ やさしい、好き♡

「ちんぽね♡ きもちいい♡
きもちいいよ？♡
ちんぽでガツッガツッ♡
しよ？♡ ちんぽでまんこ、
イジメてえ、おじさん…っ♡」
小さい子みたいに
夢中で私はセックスをせがんだ



「あッ♡あッん♡ああああッ♡
きもちいい♡ちんぽ♡ちんぽ来てるッ♡
おじさんチンポ♡ すごい…っ♡
あ、んお、きもちいいいいッ♡」

ビュッ

ビュッ

バチ

バチ

おじさんが容赦なく
子宮めがけてチンポを入れこんでくる
水しぶきが弾けるほどの交尾に
私も甘い声をとまらない

バチバチ

「おじさんちんぽ♡ちんぽ♡
ちんぽ、好き♡好き、ですっ♡
ちんぽでされるの♡ まんこ♡
おまんこセックス♡ あう、好き♡」

硬いのでグチュグチュに
かき回されると、頭が回らない
ただ、こんな気持ちよさを与えてくれる
おじさんのチンポに
愛しさがこみあげ、あふれる



「おじさんっ♡おじさん、きもちいい？
私の、ナカっ♡ おまんこ♡
きもちいい？ きもちよく、できてる？♡」

ビクビク

ビクビク

ビク

ビク

ブ
チュ

チュ
ブ

どうせなら私だけじゃなく
おじさんにも気持ちよくなってほしい
まんこでちんぽ、出ちゃうくらい
気持ちよくなっ♡

おじさんは返事をしながら
身体でも応えてくれる
バツキバキのベニスで
私の中をドンドンと発掘していく

ビウ
ビウ

ビウ♡

♡
ビウ

♡
ビウ

「あッ♡あっぐう♡んお♡
あ、きもちいいんだ♡ まんこ♡
おまんこ♡ きもちいいんだあ♡」
ちゃんと出来てるうれしさで
さらに私のカラダは素直に反応してしまう

ヌポ

ヌポ

ヌポッ

「あ♡あッ♡あ、ああ♡
ね？ イク♡ わたし、イク…♡
まんこ♡まんこイク♡
ちんぽでイツちやうう…っ♡」

ヒュー
ヒュー

ビッ
ビッ

ハッ



パンパンパン…っ
腰がぶつかる激しい水音のなか
急速に気持ちよさの波が大きくなる
「あ、おじさん♡イク♡おまんこイクッ♡」
ハ



「んお♡ ンおおおおおおおお♡
ちんぽ♡ しゃせーでッ♡
イ、ぐうううううううッ♡♡」

ビッ
ビッ

ビッ
ビッ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

タイミングばっちりの精液が
子宮めがけて飛び散った
やば…、これ♡ この熱いので、せーして♡
また、またイク……♡
あ、イクイクイク……ううううッ♡

「は？
そんなこと言っていないけど」
私はガンをきかせてにらむ。

ギョッ

まったく冗談じゃない。
なにがおじさんちんぽ大好き、だ
そんなの死んでも口にしない



あ、先っぽ、エッチなにおい……
ぺろぺろ、と舌が勝手に
亀頭を舐め回す

スシ

スシ

なにがお掃除フェラよ……
こんなのさせられても
全然うれしくない……
「ん、んむ……♡
んう、ちゅ、ちゅぱ……♡」

「なにニヤニヤしてんのよ……」
亀頭をしゃぶりながら睨みつけると
おじさんはニヤニヤと笑った
チツ、なんだ、この中年は……

「……で、まだするんでしょ？」
チンポ舐めしていると、また身体が
おまんこが切なくなってきた
「今度は、私が上になるから……♡」
想像するだけで
お腹の奥がカアツと熱くなり
トロリと白い粘液がこぼれ落ちた。

もじもじ

キュンキュン